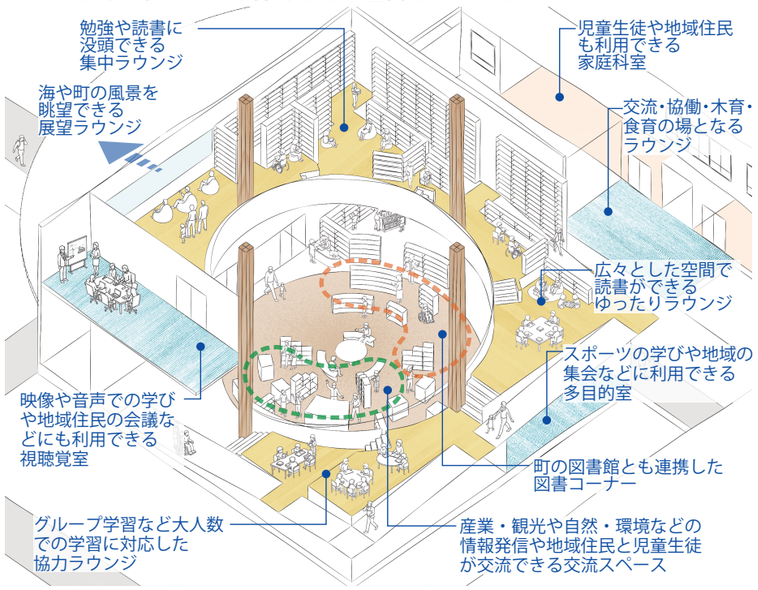
特定テーマ２：地域との連携・協働を深化させる機能や地域の生涯学習センターとしての機能

つなぐ学びの森

交流の中心とすべく学校と生涯学習センターを複合化し「つなぐ学びの森」をつくります。人と人をつなぎ、雄武町の未来につなげ、持続可能な町となるよう児童生徒や地域住民が学び・交流を通じ「つなぐ学びの森」で人や町をみんなで育てていくような施設とします。

交流の中心となる「つなぐ学びの森」

- 町の**漁業や畜産などの産業**や**自然・環境・エネルギー**を学ぶため、情報発信や地域住民と児童生徒が**一緒に語り合い学ぶことができる空間**をつくります。
- **多様なスタイルに対応した読書空間**をつくります。
- 多目的に利用できる室を確保し、**社会体育施設と連携**してスポーツの学びや**地域の集まりにも利用できる空間**をつくります。

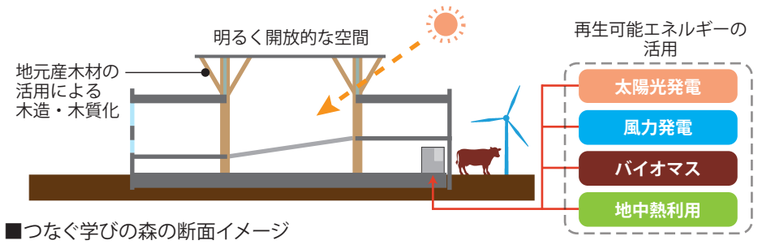


学校施設の地域開放による連携・協働の深化

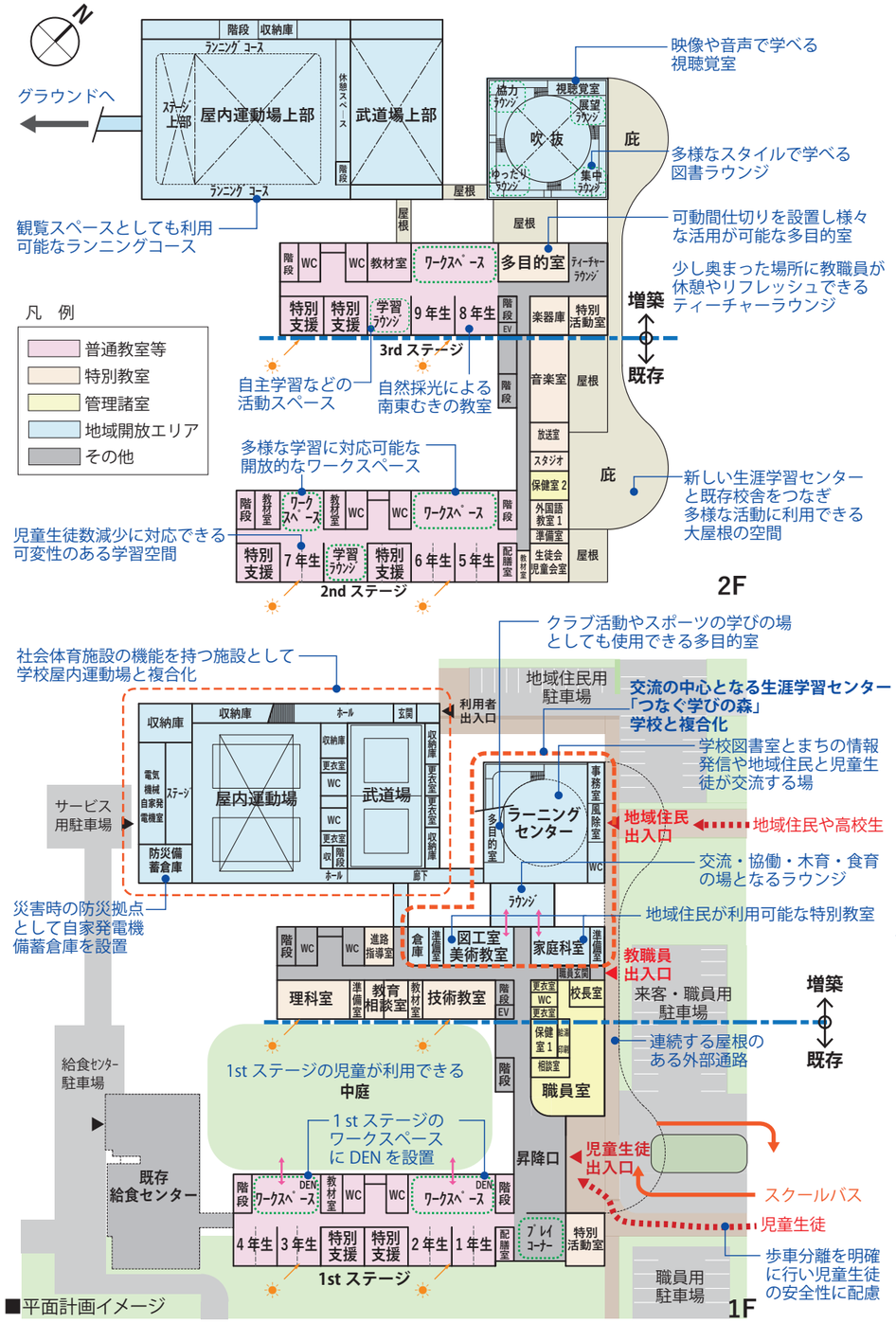
- **図工室・美術教室**は、**地域住民が地元産の木材を利用したクラフト**などができ、**家庭科室**では、**町の海産物を利用した調理教室**を行うことができるよう、地域交流ゾーン側に配置します。共有することで、**児童生徒の木育や食育につながる交流ができる空間**とします。
- ２室に隣接して**ラウンジを設け、木工作品の展示や調理した料理を食べることなどで交流ができる空間**とします。

郷土愛を育む木質化や再生可能エネルギーの活用

- 施設は、**地元産の木材で木造化**を目指し、「つなぐ学びの森」として森の中にいるイメージとします。また、内装材などにおいてもできるだけ**木質化し、触れて見て感じることができる施設**とします。
- **再生可能エネルギーの活用**と**エネルギーの見える化**により、**自然や環境問題、脱炭素化**について学ぶことができる持続可能な施設を検討します。



■つなぐ学びの森の断面イメージ



■平面計画イメージ

■立面計画イメージ

誰もが安全・安心な複合施設

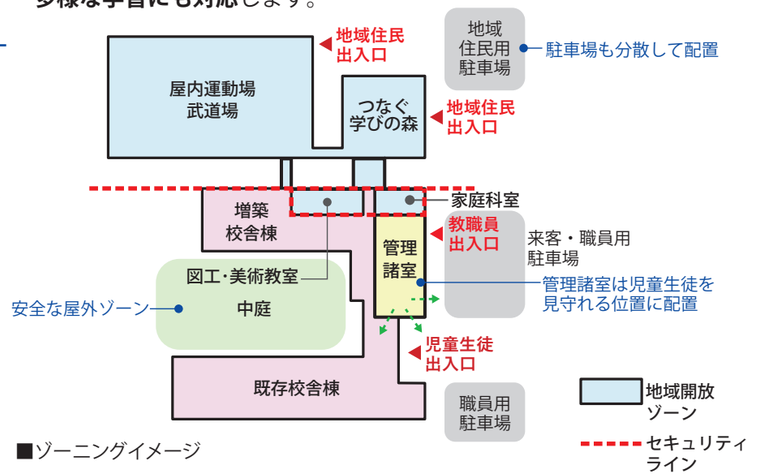
児童生徒が安心して過ごせる学校と、地域住民が利用する生涯学習センターなどとの複合化に対応したセキュリティや運営管理方法に配慮し、安全・安心な複合施設を提案します。

開放的で安全性に配慮したゾーニング

- **「地域開放ゾーン」を明確に区分**し、**セキュリティラインを設定**します。
- **セキュリティ確保の手法については**、物理的な対策（壁や扉で区画）、技術的な対策（IC カードや指紋認証で入退を管理）について**関係者と協議し安全面や運営管理に配慮し計画**します。また、物理的な対策の場合は、ガラス間仕切りなどで閉鎖的にならないよう配慮します。
- **管理諸室は、児童生徒の出入口に隣接**して設け、児童生徒を見守ります。また、地域開放ゾーンとも隣接させ、運営管理にも配慮します。

■ガラス間仕切りの事例

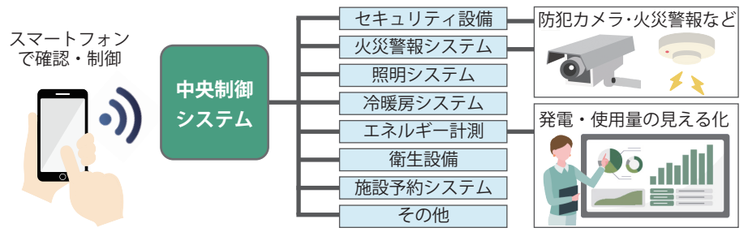
- 児童生徒、教職員（来客）、地域住民など**利用者ごとに出入口を設け、校舎棟に第三者が立ち入らないよう安全を確保**します。
- **駐車場も分散配置**し、歩車道の分離やスクールバスの乗降場所確保など**敷地全体の安全を確保**します。
- 校舎棟側に 1st ステージの児童も**安心して屋外で遊ぶことができる中庭**を設けます。中庭へは、ワークスペースからも出入りできる計画とし、**多様な学習にも対応**します。



■ゾーニングイメージ

中央制御システムによる児童生徒の安全確保

- **地域住民と児童生徒**が**利用する室のセキュリティライン**を**安全に管理**するため、**中央制御システムを導入**します。また、教職員がスマートフォンにより照明や冷暖房設備などを遠隔操作できるようにし、管理の効率化や省エネにつなげます。



■中央制御システムイメージ